

科目区分：中等教育コース（英語教育専攻）
授業科目名：英語コミュニケーション演習 1

リテラチャー・サークルを取り入れた授業モデル化に向けた取組

所属・氏名：英語教育講座 立松大祐

1. 授業の概要

本授業の履修者は 38 名で、そのおよそ半数は小学校サブコースの 1 回生の学生である。小学校学習指導要領改訂により、2020 年度から小学校 3・4 年生では外国語活動、5・6 年生は外国語を教科として学習することになった。また、中学校学習指導要領では、英語の授業は英語で行うことを原則とすることになり、授業がコミュニケーション能力の育成を重視することがますます明確化された。したがって、小学校や中学校の教員を志望する学生は、英語で授業を運営できる程度の英語コミュニケーション能力と指導技術を身に付けておくことが求められる。

本授業では、個人活動・ペア活動・グループ活動を通して英語を積極的に使うことに慣れ、将来の外国語教員として必要なコミュニケーション能力の育成を図り、英語圏の文化についてもある程度の知識等を得ることができるよう内容を構成した。特徴的な取り組みとしてはリテラチャー・サークルを実施していることである。

到達目標として、(1) 英語の 4 技能のそれぞれの能力を育成することができる、(2) 4 技能を統合したコミュニケーション能力を育成することができる、(3) 教員として必要とされる基礎的な英語力を身に付けることができることを設定した。到達目標の達成を把握するため、2 回のパフォーマンステスト (Small Talk と Skit) と TOEIC テスト形式でのリスニングとリーディングテストを実施した。

2. リテラチャー・サークルでの学習

リテラチャー・サークル (Literature Circles 以下 LCs) とは、学習者がある程度のまとまった分量の英文を読み、その内容について小グループで議論したり応答したりする活動である。昨年度から始めた学習方法であり、英語の 4 技能を育成するための効果的な言語活動であると言える。昨年度のアンケートにおける学生の自由記述からは英語の学習への動機づけが高まり、自律学習を促す効果も読み取ることができた。また、英文が短めであり理解しやすいものの方が、話し合い活動

が活発になる傾向が見られた。課題としては、実践の手順や方法の改良を行い、学習者のコミュニケーション能力が向上し、自己効力感を得られるような授業づくりを目指すことが挙げられた。

本年度は、5 人グループを形成してメンバーそれぞれに次の 5 つの役割 (Questioner/Discussion Director, Connector, Illustrator, Summarizer, Vocabulary Enricher) を割り振った。学習活動は概ね次の 5 つのステップに沿って行われた。(2) は今年度の新しい取組である。

(1) 「準備」

あらかじめ決められた読み物を課外学習で読み、担当する役割の準備を行う。

(2) 「ロール・ミーティング」

各グループから同じ役割のメンバーが集まり、読み物の内容や発表内容などについて相互理解を行い、グループでの話し合いのための最終準備をする。

(3) 「話し合い」

各グループで読み物の内容について話し合いを行う。

(4) 「振り返り」

活動の振り返りを行い、グループ手続きの改善点などの確認を行う。

(5) 「報告」

各グループの話し合った内容をクラス全体に報告する。

読み物は、“*Chicken soup for the kid’s soul: 101 stories of courage, hope and laughter.*” を中心に 450 語から 800 語程度のものから選択した。また、中学校の検定教科書から選択したものもあった。

今年度は全 8 回の LCs 実践を行った。昨年度と同様にグループのメンバーは固定し、5 つの役割はローテーションできるようにした。

3. アンケート結果に見る学生の LCs への反応

LCs の授業を 8 回終えた 2017 年 7 月にアンケート調査を実施した (回答者 29 名)。質問は 20 項目であるが、その一部の結果を報告する。

質問 2. 「LCs での学習を通して、英語のコミュニケーション能力が身に付くと思いますか。」

本質問では、「全くそう思わない」、「そう思わない」、「どちらともいえない」、「そう思う」、「とてもそう思う」から選ぶ5件法での回答を求めた。詳細な数値は省くが、回答者の 89.7% (26 人) が、コミュニケーション能力が身に付いたと感じていることが分かった。4 技能別にも同様の質問を行っているが、ライティングを除いて概ね肯定的な回答が多かった。

質問 7. 「LCs での学習を通して、文法の力が身に付くと思いますか。」

本質問では、34.5% (10 人) もの回答者が「そう思わない」としている。コミュニケーション能力と文法の力は別物であると捉えている学習者が多いと考えられる。また、グループ活動中に読解の助けとなる文法の説明などを入れていくと、コミュニケーション能力とともに文法も身に付くと感じさせることができるかもしれない。

質問 8. 「LCs での学習を通して、語彙の力が身に付くと思いますか。」

本質問では、回答者の 75.9% (22 人) が身に付くと答えている。自由記述欄には、「準備の時に文章を理解しないと自分の役割ができないし、ディスカッションにも参加できないため、分からない語や分からない表現は調べて分かるようにしたからです。」という回答が見られ、話し合いというアウトプットを行うために語彙が身に付いたと考えられる。

質問 10. 「役割ごとのロールシートを使用することはテキストの読みを深めるために役立ちましたか」

回答者の 96.6% (28 人) が役立つと答えていることから、読解のための視点を提供することは読みを深めるためには有効であることが確認された。ただし、ロールシートに依存することは読み手の読み方や考えを縛ってしまう可能性もあることには注意が必要である。

質問 19. 「LCs での学習について感想を具体的に書いてください」

本取組により、学習者の自己効力感が育まれていることが感想から読み取ることができる。いくつかの感想例を以下に示す。

・Literature circles での学習は始めてでしたが、

最後の方になるにつれて、楽しくなりました。今日は、終わる時間になっても、まだグループのメンバーと話したいと思いました。それぞれの役割をする人が変わるので、自分がした役割について、他の人のやり方を見て次はこうしよう、など考えることができ、良かったです。また、英語での文章を読むのが、ディスカッションの準備であったから、しっかりと読もうと思って読むことができました。いつもなら、宿題だからとりあえず読もうかなという感じのことがあるけれど、意味が分からないところがあると、どういうことなんだろうと思って調べたり、考えたりすることができたので、勉強をすることができました。

・私は今まで英語の授業が嫌いであまりなかったのに、本講義は気が付けば時間が経っており全く苦痛を感じなかった。また、学部生とも話すことができ、交流が深まり仲良くなれた。楽しい授業スタイルで英語が学べて、本当に良かった。

・最初は役割も難しく、人前で英語を話すということに抵抗さえ感じていました。しかし今、英語を用いて他人とコミュニケーションをとることの楽しさ・理解を相互で深め合えることの有用さを知ることが出来たため、とても効果的なものであったと実感しています。

4. 成果と課題

2年目の取組になり、前年度の反省から内容を改善して行うことができた。技能統合型のコミュニケーション活動として今後さらなる研究と実践を通して小・中・高等学校でも実践できる活動としてモデル化を進めたい。来年度は、話し合い活動中の文法の扱いとライティング活動に工夫を行うことにより、より充実した活動になるようにしたい。

5. 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」

受講者が各地域の教員になり、英語を担当することを前提に授業を行っており、児童・生徒とのやり取り、言語活動、活動の指示などを英語で行うことができるコミュニケーション能力を身に付けることを目標としている。特に LCs は総合的なコミュニケーション活動であり、今後の研究によってどの学校段階でも実践可能になる可能性がある。今年度、附属中学校では LCs を取り入れた授業を始めている。さらなる研究と実践を積み重ね、地域の学校に授業モデルを示していきたい。